

地域の安全と安心を守ります



①規律正しい部隊行進(消防出初め式) ②堤防決壊の対処法を実践(水防演習) ③訓練の成果を競う(消防操法大会)

近年、全国で風水害・地震などの大規模災害が多発し、地域防災の要である消防団の必要性が高まっています。特に、地域に密着した消防団員の活動は、災害に強い安全なまちづくりの実現に欠かせません。

消防団とは

消防団は、火災はもちろんのこと、台風や豪雨などの風水害、地震などのさまざまな災害に対して消防署と連携して対応に当たります。

消防団員は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、日ごろはそれぞれが職業を持って働いています。

火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆け付け、その地域での経験を生かした消火活動・救助活動を行います。

消防団員の身分・待遇

消防団員は、非常勤特別職の地方公務員です。年額報酬や退職報償金、出勤手当が支給され、公務

員災害補償などが受けられます。

消防団の構成は

成田市消防団の構成は、12分団・97カ部で、構成員は1、430人です。水槽付消防ポンプ自動車1台、消防ポンプ自動車19台、小型動力ポンプ付積載車77台の消防車両を配備し活動しています(平成27年4月1日現在)。

日ごろの活動は

消防団員の仕事は災害活動と災害以外の活動に分けられます。その主なものは次の通りです。

災害活動

- 火災の消火活動
- 火災鎮火後の警戒
- 風水害(台風・集中豪雨・洪水)



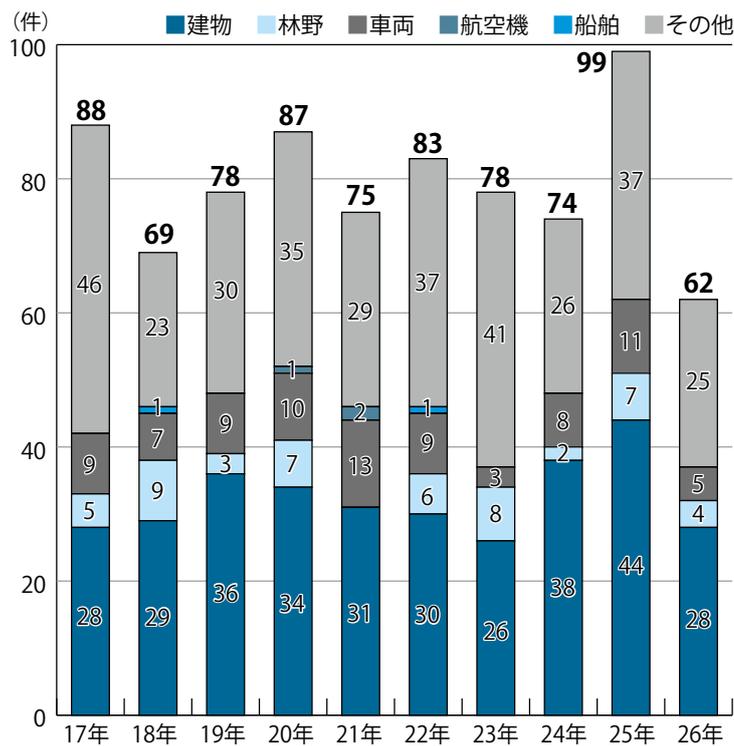
新入団員の知識や技術の向上を図る(消防団夏季訓練)

本市の火災状況

平成26年の総火災件数は62件で、その内訳は建物火災28件、林野火災4件、車両火災5件、その他火災25件となっています。約6日に

- などの警戒
- 震災時の消火活動、人命救助、避難誘導
- 崖崩れ・地滑りなどの警戒
- 災害以外の活動
- 地域住民の防災意識を高めるための火災予防などの啓発活動
- 火災が多発する時期や火災予防週間などに警戒活動
- 災害の発生に備え、消火活動や人命救助の訓練
- 出動に備え、資機材の点検・整備

図1 過去10年間の市内の火災件数推移



1件の割合で火災が発生していて、延べ1,239人の消防団員が出動しました。

過去10年間の市内の火災件数推移と、平成26年の消防団員出動人員は図1・表1の通りです。

あなたの力が必要です

災害から地域を守るためには、多くの人の力が必要です。市内在住の18歳以上で、熱意のある健康な人なら誰でも入団できます。消防団の活動に興味のある人は、

表1 平成26年の消防団員出動人員

種別	出動人員
建物火災	379
林野火災	82
その他火災	412
誤報	366
合計	1,239

気軽に問い合わせてください。
※くわしくは消防総務課(☎201590)へ。

消防団員インタビュー

自分たちのまちは自分たちで守る



成田市消防団第1分団
第4部 団員
加瀬間 俊行さん
(郷部)

夜に地域を見回って火災などの警戒をする「夜警」を小さいころからよく見ていたので消防団は身近な存在でした。

日ごろから消防団が行っているポンプの水出しや防火水槽の点検、家庭の消火器点検などは、万が一火災

が起きても被害を最小限にできるため、実際に火災現場に出動してその大切さを実感しました。

近年、消防団員の人材不足や高齢化が全国的な課題となっています。消防団員は決して特別なことをしているわけではありません。地域のために貢献したいという若者が多く入団してくれるとうれしいです。